

ミャンマーを現地視察

「ティラワ経済特別区」など見学

工業部会通信

相模原商工会議所 工業部会発行

編集 かながわ経済新聞社
代表：千葉龍太
〒252-0239
相模原市中央区中央3-12-3
TEL：042(851)2021
FAX：042(851)3532
プリントしてご自由に
お読み下さい。

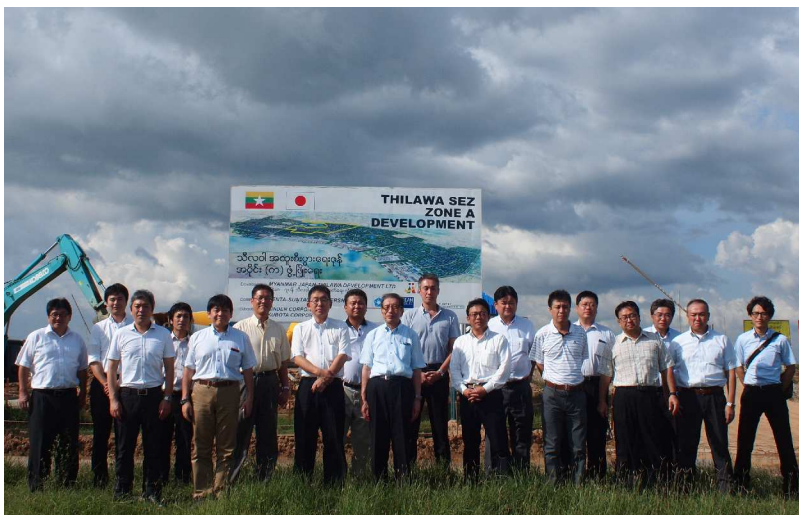
かながわ経済新聞 KANAKAKEI



近未来技術研究会の視察団 = ヤンゴン市内



MJTDの朝礼の様子も視察



「ティラワ工業団地」の開発地前

現地進出の可能性を探る

近未来技術研究会

一行は1日に成田空港を出発した。2日の現地入り初日は、ヤンゴンから約70キロ離れたバゴ管区を訪れ、生活文化が息づくマーケットや寺院を視察。その後ヤンゴンに戻り日本人墓地を訪問した。

翌3日はまずジェトロの現地事務所に行き、投資アドバイザーの牛腸純和氏から現地情報や投資環境に関するレクチャーを受けた。

その後はティラワ経済特別区を視察。工業団地の開発を手掛けている現

相模原商工会議所工業部会・近未来技術研究会（西澤勇司会長）キャロットシステムズ社長は、1～5日にかけて今後の経済成長が期待されるミャンマーへの現地視察を実施した。所属メンバーら17人が参加し、ミャンマーで初の経済特区となる「ティラワ経済特別区」などを視察。日系企業の進出が進みつつあるミャンマーで、現地ビジネスの可能性を探った。

地政府との合弁企業「ミヤンマー・ジャパン・ティラワ・ディベロップメント」(MJTD)の梁井崇史社長が特区や工業団地の開発状況について解説した。

同区はヤンゴンから南東に20キロほどの場所に位置。ティラワ港(河川港)に隣接している。2011年のミャンマ



マーケットで雑貨の品質を見る参加者



ミャンマーの魅力について語る岩崎亨氏

ーティン・セイン大統領から日本側への協力要請を受け、MJTDを設立し、開発をスタートしている。総開発面積は東京ドーム500分に相当する2400ヘクタール。このうち今年5月からクラス(A396ヘクタール)の販売を始めた。

視察終了後は、ヤンゴン市内に戻り、日本人が運営する「KHAYAYAY幼稚園」を訪問。元園連職員であり、同幼稚園の

経営者の岩崎亨氏が「移り住んで分かったミャンマーの魅力」をテーマに、自身の体験談などについて語った。

最終日となる4日目は、ヤンゴンでソフトウェア開発をおこなう「ミヤンマーDCR」(MDCR)を視察。同社は08年に100%日系資本によって設立されたミヤンマー初の日系IT企業だ。

社内公用語に日本語を適用しており、朝礼ではプレゼンや事務連絡など全て日本語でおこなわれ、日本のラジオ体操も取り入れられている。

一行は、午後ヤンゴン市内の寺院等を見学し、日本時間で5日早朝に帰国した。

同社の小林政彦ゼネラルマネージャーからは、企業概要について説明され、ミャンマービジネスの状況や社員教育等について意見交換をおこなった。

参加者は「ミャンマーにはまだまだ大きな可能性があると感じた。また日本人にとっても比較的馴染みやすい国。これからの経済発展によりますます大きな期待ができます」と視察の感想を語った。



美しい時代へ— 東急グループ

Town Value-up Management

タウン バリュースアップ マネジメント

街の新たな価値創造をめざして

- 街並の美観向上
- 定住人口の増加
- 来街者の増加
- 資産価値の向上

Town Value-up Management

東急建設株式会社
http://www.tokyu-cnst.co.jp/